

4. 第4回フォーラム記録

平成18年11月23日

開 会

【廣 田】 まだ二、三お出でになっていない方もいらっしゃいますが、本日は勤労感謝の日の休日というのに会を開かせていただき、大変恐縮しております。先生方はお忙しいものですから、御都合のいい日を探すのに大変手間取りまして、やっとこの日が、全員御都合がよろしいということで、今日にさせていただきました。

この会は、御案内いたしましたように、第1回と第2回を国際高等研究所のお世話で、2002年の5月と12月に開催いたしました。それから昨年、やはり高等研で第3回を6月に開催させていただきました。今回は第4回です。今回からは総研大の方をお願いいたしました。総研大葉山高等研究センターの研究プロジェクトに、「人間と科学」という課題がございますが、そのプロジェクトの中の一つの研究課題として申請させていただきました。去る5月にヒアリングを受けまして、それで無事お認めいただいて本日の開催になったものでございます。総研大の事務局の方々、特に角田さんに大変お世話になりまして、本日の開催にこぎつけたわけでございます。

この会の趣旨につきましては、もう何度も申し上げておりまして、あまりつけ加えることはないのですが、人間の長、一番すぐれた点の一つかと思えますけども、よりよいものに対するあこがれと申しますか、そういうものに対する憧憬をもとに置いて、人類は多くの活動を積み重ねてきているわけでありまして。平たく言うと「進歩主義」というようなことになるかと思えますが、それで、そういうものを実現するために、いろいろな施策が行われているわけでございますけども、私どもは政治家ではございませんで、大学・研究所に所属する者として、知的な活動を通じて、こういう進歩に伴ういろいろな問題に対処していつはどうかということで、こういうフォーラムを企画しているわけでございます。できるだけ多くの分野の方々にお集まりいただいて、それぞれの分野の活動、知的な蓄積を踏まえて、いろいろな御意見をいただき、「進歩主義」というものをより健全な発展に持っていきようになりたいというふうに思っております。少々大げさな言い方をしますと、進歩主義を否定するのではなくて、それを包括したより高次の、新しい、しっかりした哲学・思想をつくり上げていきたいというふうに思っているわけでございます。

本日は、7人の先生方に御講演をお願いしております。ただ、核融合科学研究所の所長をしておられます本島先生が、本日尾身幸次財務大臣が研究所を見学されるということが入ってまいりまして、約半月前に突如「ちょっと残念ながら今回は出席できない」という御連絡がございました。新しい講師の先生をお願いするゆとりもございませんでしたので、私が、代役にはなりませんですが、お話をさせていただくことにいたしました。

今回は総研大で開催するという事になったわけですが、長倉先生を初め、基盤機関の所長の先生方、あるいは前所長の先生方に講師をお願いする次第でございます。

一つ御了解をあらかじめ得ておきたいのですが、こういうフォーラムは討論をしつ放してはどこかへ消えてしまいますので、講演はもちろんのこと、討議もできるだけ詳しく記録して、印刷・製本し残していきたいというふうに思っております。第1回、第2回はそういう形で、高等研の方で冊子にまとめていただきました。第3回はテープ起こしまで済んでいるのですが、まだちょっと印刷までいっていません。今回ももし御了解が得られましたら、記録をさせていただきたいと思っております。原案ができましたら、御講演、御出席いただいた先生方に、その原稿をお送りいたしまして、お目通しいただいて、ここはちょっと具合が悪いとか、あるいはここはもう少し書き足したいということがございましたら、遠慮なく改訂していただいて、十分御了承を得て印刷にしたいと思っております。

それから、資料をいろいろここでもお示しいただけますし、またお配りいただくこともあろうかと思いますが、そういう資料もですね、あまり多いとちょっと記録するのに技術的に難しくなることもあろうかと思っております。この資料は載せてほしいということ率直におっしゃっていただきまして、記録の中に含めたいというふうに思っております。これまた、後ほどテープ起こしができた段階で、個別に御相談申し上げますので、御遠慮なく御指示いただければと思います。

こういうフォーラム、私は私の命の続く限り何とか続けていきたいと思っております。総研大の方でお認めいただけるかどうかはわからないのですが、今回が第4回ですが、第5回もできれば来年度に計画したいというふうに思っております。その詳細につきましては、いろいろと御意見、御助言をいただきたいと思っております。これは夜の懇親会の方で率直な御意見をいただければと思います。

あと、つまらないことですが、このすぐ外にお茶の用意もございますので、午前中などは休みをとっておりませんが、御講演が30分、そのあと20分討論の時間を用意してございますが、その間、適当にのどがかわいて、あるいはちょっとリラックスしたいという

きは、随時いらっしゃって、セルフサービスで大変恐縮なんでしょうございますが、適宜お茶を召し上がっていただきたいと思います。

それでは、これからちょっと簡単な自己紹介を、もう皆様方はお互いによく御存じだと思いますが、お名前とちょっと簡単な自己紹介を2～3分ずつでお願いできればと思います。なお、勝木先生は御家族の御都合で、朝から御参加いただけなくて、お昼ごろにはいらっしゃると伺っておりますが。それから、第1回から第3回までに御講演いただいた先生方に随時御出席いただくようお願いしておりますが、今回は鴨下先生に御出席いただいております。実は、石井紫郎先生からも御出席との御返事をいただいていたのですが、何か急にお体の調子が悪くなったそうで、残念ながら今回は御出席いただいております。そういうしきたりにしておりますので、先生方も5回目以降、講演もさることながら、討議をしていただくことが一番大きなこのフォーラムの核心でございますので、5回目以降、なかなか御都合が合わないかとは思いますが、御出席をあらかじめお願いしておきたいと思います。

それでは、自己紹介を順番にお願いしたいと思います。高畑先生の方からどうぞ。

【高 畑】 高畑と申します。よろしくお願ひいたします。専門は集団遺伝学の分野で理論を行っておりますけれども、ここに移りましてからは、生命体科学専攻の方で、いろいろもう少し広い視点から生物全般のことをやりたいと。特に人類の起源の問題について興味を持ちまして、そちらの方の仕事をやってまいりました。6年前から副学長になりましてからも、少しずつそんなことをやっております。きょうは廣田先生、午前中、司会をしていただきますけれども、午後、私の方で司会をさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【石 毛】 おはようございます。石毛でございます。私は国立民族学博物館にありました。博物館をやめてからはどこへも所属せず、会議のない人生というのを楽しんでおります。このフォーラムに関係したようなことでは、私、もともと民族学ですし、特に食事の文化の比較研究みたいなのをやってまいりましたが、そういったことを離れて、ちょっとはこのフォーラムに関係あるかと思うことでは、中国文化圏の中での日本の物の考え方と歴史みたいなのを「侍日本・文と武の東洋史」という本で書きました。しかし、この進歩主義にうまく合うようなお話ができるかどうか、甚だ不安でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【海 部】 海部宣男でございます。国立天文台をこの3月で退任しましてですね、石毛先生は1年間なんですけど、本当に長い日を過ごすはずだったんですけど、学術会議というところで、何か大変あそこは人使いの荒いところでしたね、思いもよらないような会議づけになっ

て大変残念なんです。実は、来年からは放送大学で、この1年間はフリーということですね、いろいろあちこち遊び歩いたりするという予定で、まあ結構遊んではいるんですが、そういうわけで、まだあまりいろいろまとまって物事を考えるということになっておりません。でも、この廣田先生の進歩主義の後継ぎというのは、私は進歩主義ということについて、正面切って言葉も含めて、考えたことは今まで正直言ってなかったと思います。そういう意味で、考えるチャンスをいただきまして、本当にありがたいと思います。どうぞよろしく。

【片 倉】 片倉でございます。今、日文研の国際日本文化研究センターの所長を仰せつかっております。前に国立民族学博物館におりまして石毛さんと御一緒でした。みんなく時代、総研大の大学院研究科長をやらせていただきました。そのとき、この総研大の建物を建てる話が出たんですね。葉山の緑の景観を崩さないように屋上庭園をつくってもらえないかと余計なことを言いまして、廣田先生を困らせた。文科系はうるさいなんて言われた記憶があります。(笑) 予算のことやら、いろんなことで屋上庭園とはいかなかったんでしょうけれど、屋根を緑にしてくださって、きょう満足して拝見しておりました。少しは聞いてくださったんだなあと思って。この建物のなかに入れていただくのは、今回初めてなんです。何か感激しております。いいところで、またちょくちょく来させていただきたいと思っております。余計な話してますね。何を言うんでしたっけ。(笑) 日文研には去年から参りました。人手不足だったらしくて、私に来いということだったんです。いってみると大変にいいところで、尾本先生には、去年ご講演をお願いしましたが、皆様、またお遊びにというのも変ですけど、景色もいいし建物も芸術的、ここもいいですけどね、また違ったよさがありまして、どうぞいらしてください。あまり自己紹介になってない。(笑)

【廣 田】 また後でゆっくりお話ししてください。

【鴨 下】 鴨下と申します。先ほど廣田先生のところからちょっと名前を出していただいたと思います。私、専門が小児科の医者でございまして、万が一ここでどなたかが具合悪くなっても、役には立たない。(笑) 実はこの「進歩主義の後継ぎは何か」の第1回が、学術会議の第7部におりましたが、そちらにお話ございまして、だれか出席しろと。当時、遠藤実という薬理の教室の先輩ですが、部長で、だれも希望者がいないから、どういうことをやるんだか、とにかく聞いてこいということで、代理のような格好で出していただいたんですが、黙っているわけにもまいりませんので、課題を与えられまして、私は医の倫理と申しますか、生命倫理と申しますか、そういうことをお話しさせていただきました。第2回目には、小児

科なものですから、子供が少ない少子化、少子社会問題の問題について述べさせていただきます。そんな御縁で廣田先生からぜひまた討論に加わってほしいということでございます。討論はともかくとして、非常に異った分野の、しかも日本でも代表的なトップクラスの先生方のお話を聞くというのは、大変今までなかった経験で、それは集中的に研究させていただくということで、今回も参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

【藤 井】 おはようございます。国立極地研究所の所長を今年の10月から務めております藤井と申します。私の研究所は極地ということで、南極観測、それから北極、地球の寒いところ、そこはある意味では非常に大事なところなんですけど、研究しております。私自身のバックグラウンドは雪とか氷を研究しております、学生時代は工学部の学生だったんですけど、大学紛争の真っ盛りに、南米に山登りに行きまして、氷河を見まして、そこですっかり違う世界、まあカルチャーじゃないんですが、一種のカルチャーショックを受けまして、それで人生が変わりまして、氷河を研究するようになりました。日本の富士山、北アルプス、それから大学院時代は、大学院のそうですね、ドクター時代は半分ほどネパールに住んでヒマラヤの氷河。ヒマラヤは氷河にも魅せられましたけども、そこにいる人々に魅せられました。あの辺へ行きますと、人類学やっている人だとかですね、いろんな人に会って、大変楽しい青春時代を過ごしました。その後、極地研究所に就職したんですけど、極地研究所は、南極自体は地球を考えると非常にわくわくする場所なんですけど、ネパールみたいに気候だとか文化とは、ちょっとほど遠いところ。そういうところでもう30年近く過ごしてきました、文化あるいは人みたいなものと大変遠い世界になってしまいましたけれども。今回の「進歩主義の後継ぎはなにか」ということで、やはりいろいろ考えてみますと、大分遠い世界の話をしたのかなと思いました。でも、何か話をするということで、勉強をさせていただきましたけれども、まあ奥行きはもちろん深い、だれも答えはなかなか見つからない世界だと思いますけども。私なりにこう思い、これを考えて、いろいろ楽しませていただきました。きょうはそういう機会を与えてくれました廣田先生に感謝申し上げます。よろしくお願いいたします。

【長 倉】 長倉でございます。ここに参りまして、今朝、時間がございまして、キャンパスの中を回ったんですが、緑が美しい。モミジが美しいと申し上げたいんですが、どうもモミジはそれほど美しさを感じませんで、むしろ緑の美しさを感じたわけです。同時に、1988年に創設される前の準備の段階、片倉先生に大変お世話になったことを、今思い出しましてですね、大変懐かしく思っております。同時に、すばらしいキャンパスになったなということを感じておりまして、ここまで来たということに対しては、大変ありがたいと思っ

ております。小平先生、高畑先生、大変な努力をされていると思うんですけども、もちろんその前にはいろんな形で皆さん、御尽力をいただいたわけで、特に廣田先生には学長として大変な努力をしていただいたということだと思います。で、きょう、私はふだん考えておりますことを率直に申し上げまして、いろいろ御批判をいただきたいと思っております。まさに人類社会が新しい大きな転換期を迎えたというふうに感じておりまして、そういう面からこれからどういうふうに我々生きていったらいいかということをいろいろ教えていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

【尾 本】 尾本でございます。私、専門は人類学（自然人類学）ですが、東大理学部の人類学教室に入ったところ、それまでの人類学は遺伝子のことを全然やっていないことに気づきました。進化は、やはり遺伝子が変わることだから、遺伝学を取り入れなければだめだと言いましたら、当時の人類学の大御所である長谷部言人先生に怒られました。人類学は、身体の変化を研究するが、遺伝学は変化しないもの（遺伝子）の研究だから関係ないと言うのです。それで、ドイツへ留学して遺伝学を勉強しました。帰国してやったことは、日本人の起源というテーマに集団遺伝学の方法を応用したことです。特に、古くから起源が謎とされていた北海道のアイヌの人たちを遺伝子レベルで調べて、彼（女）らこそ日本列島の先住民であることを発見しました。そんなことがあったので、東大を60歳で定年になりましたとき、日文研所長（当時）の梅原猛先生から、日本人の研究をしないかとお招きいただき、それで5年間京都で楽しく研究活動をさせていただきました。

私、実は、今だから平気で言えるのですが、子供のころから勉強そっちのけで、チョウチョウとか、将棋とか、そんな遊びごとに夢中でした。東大にいたときは黙っていたのですが、日文研に行ったら、遊びも趣味も表に出して研究できるということがわかりました（笑）。専門のほうでは、「日本人および日本文化の起源」という大型研究プロジェクトをお世話したのですが、そのほかに、「日本文化としての将棋」という学際的研究を、プロ棋士から将棋好きの学者まで集めてやりました。それから、DNA研究の実験室をつくっていただきまして、そこで「DNA考古学」という新しいプロジェクトを立ち上げました。古い遺跡から動物や植物の試料のDNAを調べるのが主目的ですが、そこでチョウのDNAも少しずつ見ていたのです。するとある時、北海道の大雪山にいる天然記念物のウスバキチョウのDNAを文化庁・環境庁の許可をえて検査し、そのルーツを突き止めるという計画がもちあがりまして。いったい、日本文化とチョウのDNAとはどういう関係があるのかと聞かれたので、これは天然記念物である。天然記念物は日本文化である。だから、日本文化の一部であ

るウスバキチョウの由来をDNAで調べるのはおかしいことではないとあって、やらせていただきました。

そんな勝手なことをさせていただいていましたが、私は、日文研ではじめて、好奇心や審美眼、遊びの精神といった学問の原点に今一度立ち返ることができました。65歳で定年を迎え、今度は大阪の桃山学院大学に迎えていただきました。実は、いままで人類学をやってきたが、現代におけるヒトの問題をもっと考えなければいけないと思い、私が研究してきたアイヌやフィリピンのネグリトと呼ばれる採集狩猟民がかかえている問題を念頭に「先住民族の人権」という研究プロジェクトを立ち上げました。やがて、70歳でそれも定年となり、2004年に東京に帰ってきました。たまたまその年に、葉山の総研大では、私の研究仲間でありました寶来聰さんが58歳の若さで亡くなってしまい、ヒトの遺伝学的な研究がちょっとストップしてしまいました。そんなことがあったので、高畑先生からお声がかかって、いろいろ研究上のアドバイスをさせていただくような立場のシニア上級研究員として、2005年からこの葉山高等研究センターにお世話になっています。

自分の経験では、学者にとって、若いころはなんと言っても「専門」が大事ですね。そして、中年になると「学際」研究が重要となります。さらに、熟年になると「総合」ということを考えるのだと思うのです。実は、今考えていることは、今までの人類学でいう「人類」ではなく、「ヒト」(ホモ・サピエンス)という動物種のユニークさは何か、またそれはいかにして生じたのかという問題です。そして、そこから、われわれが直面する地球環境・平和・人権といった問題を研究するために「ヒト学」という学問を提唱しております。それで、「総合化」に何とか結びつけて、私の学問を完結させたいと思っております。どうぞよろしく願います。

【及川】 総合研究大学院大学の及川です。専門は考古学です。大学を卒業するまでは考古学をやっていましたが、卒業した後、いろいろ事情があって、自ら望んだわけではなく、コンピューターの勉強をさせられました。しかし、やっているうちに、これは考古学にも十分応用できるのではないかということで、考古学の研究にコンピューターを使ってみようということになりました。今、主として考古学関連のデータベースをつくっております。そのほか、対象を広げようと、情報処理学会という学会がありますが、この中に人文科学とコンピューターという研究会を設立しました。これは民博にいらっしゃった杉田先生が最初の主査でおやりになったんですけれども、この研究会の活動を20年近く続けてきております。

こういう研究会はほかにはないだろうと思うのですが、この研究会が発足したときに、全

国47都道府県で研究会を開催するという野望を抱きまして、やっと先月、青森県の八戸で47都道府県全部での開催を完遂しました。で、来年の1月に、本学で記念シンポジウムをやることになっておりますので、御興味があれば来ていただければと思います。

47都道府県で研究会を開催するためにはいろいろ苦勞がありました。前年度に翌年度の開催地を決めるわけですが、まあ一般的には学会の仲間の先生がいるところということで決まるのですが、我々の場合は、まず行っていない県はどこかというのを探しまして、次にできれば温泉があるところがいいなというような具合に探していきます。地方で開催しますので、参加者の多くは研究会の前日に現地に行くことになります。通常は会が終わって懇親会ですけど、我々の場合は前日に前夜祭をやることになります。で、開催地が決まってから、その近くに大学はないか、その大学でだれか知っている先生はいないかということ仲間を探して、何とか開催にこぎつけることになります。ところが大学などが探せないときは、どこか別の施設を探すことになるわけですが、一度はゴルフ場つきのホテルでやるというようなこともありました。

人文科学とコンピューターということで、ニックネーム、通称「じんもんこん」と呼んでおりますけども、そういう人文科学の研究にコンピューターをどうやって応用していくかということをやっております。どうぞよろしく願います。

【颯田】 総合研究大学院大学の先導科学研究科の颯田と申します。どうぞよろしく願います。私の専門は進化生物学なんですが、特に最近は進化生理学という新しい分野を立ち上げたいというふうに思っています。それは、例えば生物がその環境とどういうふうな相互作用をしながら進化をしてきたか。で、環境の影響が、生物のゲノムにどんなふうにあらわれていくか、そういうことを考えていくいろんなことができたらいいなというふうに思っております。きょうは総研大におりますということで、こういう会議に参加させていただく機会を得ました。本当にありがとうございました。きょういろいろ勉強させていただきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

【廣田里子】 廣田の家内でございますが、きょうはセクレタリーと申しますか、そこまでいってなくて、記録の整理をさせていただこうと思っております。どうぞよろしく願います。

【高畑】 総研大のここの整備を兼ねて、研究員制度をつくりました。廣田先生も客員研究員ということになっていただいておりますけれども、そのほかにも若い人のために上級研究員とか、あるいはセンター研究員とか、そういう制度をつくりまして、できるだけここで活

発な研究活動ができればと思っております。きょうは西岡さんに記録をとっていただくということになっております。彼は先導研の学生だったんですけれども、この10月から研究補助者ということで、学位論文を書きながら補助をしていただくという立場になっております。きょうはOHP、それからスライド等をやっていただきます。

それから、もう一人入ってきますけども、新倉さんが後ろでビデオカメラを回してくれておりまして、同時に収録の方もそちらの方でしていただく。彼はセンター研究員という立場でございます。それから、もう1人飛び入りで、後ろにおりますけれども、千葉さんで、千葉マリーナさんという、どこの国の人だかちょっとわからない名前なんですけど。千葉さんはオレゴン州立大学を出て、今度は新しい新専攻の第1期生になった人ですが、現在はセンター研究員として、研究補助者ということです。どうぞよろしくお願いします。

岩瀬さん、今、自己紹介しています。

【岩 瀬】 遅くなりまして、すいません。総合研究大学院大学を修了しまして、現在は全学事業推進室というところで、全専攻で行っている事業、例えば学生セミナーとか、総研大レクチャーとかを支援しております。学生セミナーは葉山キャンパスで行っていますが、学生セミナー実行委員会は岡崎や民博の方で開催させてもらっています。かなり学生の動きが活発になっているということを感じているところです。

よろしく願いいたします。

【廣 田】 小平先生、すいません。今、一応自己紹介をお願いしております。先生もちょうと自己紹介を一応お願いします。二、三分で結構です。

【小 平】 もう番でしょうか。

【廣 田】 もうみんな終わってしまったということで。

【小 平】 小平でございます。現在、長倉先生、廣田先生の後を継ぎまして総研大学長を仰せつかっておりますけれども、天文学者、海部さんと同じ天文学者でございます。銀河物理が専門ですけど、天文学というのは、数学とか物理がお好きで、得意でやっておられる方もいますけど、私の場合は、どちらかというとな文学の「人」という字にお箸を2本こう横に置いた天文学でございます、「人」という字に2本箸を置きますと「天」という字になりますが、天のあやを読むという方がカラーとしては強いかなと思いますけど。今はですね、葉山に来ましてからは、周辺に割合生物系の方が現在多いこともありまして、まあ宇宙に生命はあるか、ほかにいるかというような、非常に大きなテーマに今、天文学分野でも関心があるわけですけども、そういう関心もございまして、生物学の勉強、耳学問を少しずつさ

せていただいているところです。よろしくお願いいたします。

【廣 田】 大変御協力いただきまして、50分までかかる自己紹介が20分ばかりで終わってしまったんですが、講演と討議にできるだけ時間を充てた方がよろしいと思いますので、早速1番目の海部先生、御講演をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。